

国際空港の建設に向けて



市役所前で機動隊とデモ隊が衝突

昭和41年7月、市は国際空港の建設という大きな転機を迎えます。賛否両論が渦巻く中、市は、空港建設という大きな目標に向けて、新たな一歩を踏み出しました。

三里塚での空港建設が決定

昭和37年、池田内閣は羽田空港に変わる新空港を建設すると発表候補地は紆余曲折を繰り返して、昭和40年11月18日に富里に内定しましたが、地元の反対運動と、000戸を超える移転農家の問題などで、10km先の三里塚を中心とする地域が浮上しました。

昭和41年7月4日、閣議において新空港が三里塚に設置されることが正式に決定。同時に地元住民対策、道路、鉄道などの事業の概要が定められ、政府の基本方針が示されました。このことについて藤倉武男市長は、「本市にとって有史以来の出来事であり、一歩誤らんか本市将来の命運を左右するような大きな問題」と述べています（「成田市政だより」昭和42年1月1日号）から。

国や県から次々と打ち出される、空港建設関連の施策に対応するために、市では企画課を発足させるとともに、市長を本部長とする成田空港対策部会を設置して万全を

期すことになりました。しかし、反対運動は盛り上がっていき、空港問題を取り巻く情勢は極度に緊迫していきました。

昭和43年2～3月には、空港反対闘争史上、最大規模の集会が行われました。市役所前では、反対派の学生と機動隊が衝突。角材・投石などに放水で対抗するなど、流血を伴った激しい乱闘を繰り返したのです。

道路交通網の整備が進む

空港建設に当たり、必要となる道路・河川・上下水道・住宅・学校などの整備が急ピッチで進められました。

甚兵衛大橋（印旛沼）と長豊橋（利根川）が、昭和43年1月と2月に相次いで開通。これに伴い、甚兵衛の渡しと竜台の渡しが廃止になりました。

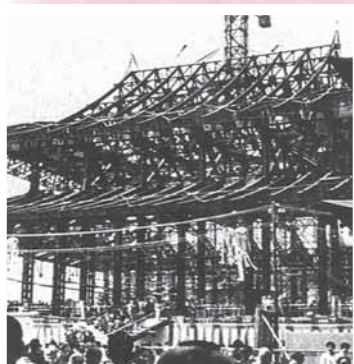
同年3月には国鉄（現JR）千葉～成田間が電化され、昭和44年5月には国道51号線佐倉～佐原間の舗装が完成し、成田市と市外を結ぶ道路交通が一気に発展しました。

「昭和40～49年の出来事」

- 昭和40年 8月 西中学校校舎が完成
- 昭和41年 7月 新東京国際空港が三里塚に設置されることが閣議決定
- 昭和43年 3月 成田山新勝寺大本堂が落成
- 昭和44年 8月 下総御料牧場が栃木県塩谷郡高根沢町へ移転
- 昭和46年11月 市民憲章を制定
- 昭和47年11月 第1回市民運動会が開催
- 昭和49年 6月 成田市公設地方卸売市場青果部が開設



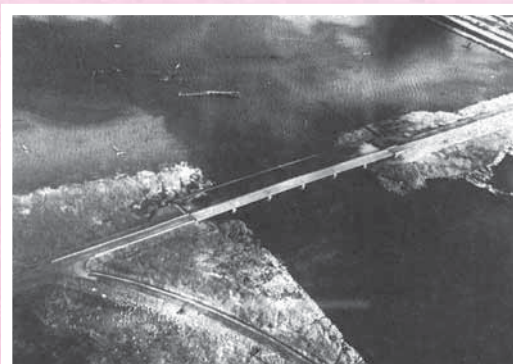
成田小の児童によって市民憲章が読み上げられた



大本堂上棟式では3トン分の餅がまかれた



御料牧場を惜しむ最後のサクラ祭り



念願の甚兵衛大橋が完成

市の木に「梅」

昭和48年に行われた千葉県体の記念事業として、昭和46年3月に、成田市の木を梅と制定しました。

昭和48年3月から、市民課窓口に婚姻届を提出した新婚夫婦に梅の木が贈呈されています。



梅の木を受け取る新婚カップル

新勝寺大本堂の落慶法要

昭和43年、成田山新勝寺の大本堂が落成しました。2カ月にわたる記念大開帳期間は、豪華絢爛な稚児行列と講社中約1万人のお練りに始まり、全国郷土民謡大会、一時中断していた成田祇園祭の復活、ちようちん行列など、盛りだくさんの行事に全国から参詣客が押し寄せ、盛況を極めました。

下総御料牧場が移転

空港の建設予定地に入るため、三里塚にあった宮内庁下総御料牧場が昭和44年、栃木県塩谷郡高根沢町へ移転することになりました。「花と駒の牧場」として親しまれた同牧場は、最後のサクラ祭りに約20万人が押し寄せるなど、た

市民憲章を制定

くさんの人に惜しまれつつ、明治18年以来続いた歴史に幕を下ろしました。

御料牧場の事務所跡地に建てられた三里塚御料牧場記念館では、当時の牧場の様子をしのおことができます。

3代目市長・長谷川録太郎氏の提案で、まちづくりの指標、市民憲章が制定されることになりました。憲章条文の草案は広く市民から募集され、461点の作品が集まりました。優秀作・香取利雄さんの草案を基本にして作られた憲章は、昭和46年11月3日の市民憲章制定記念式典で、成田小学校の児童によって全文が読み上げられました。